

令和4年度成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業（伴走支援・横展開事業）
総合評価基準

本資料は、文部科学省総合教育政策局が調達する「令和4年度成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業（伴走支援・横展開事業）」に係る入札の評価に関する基準について規定したものである。

1. 入札価格の評価方法

入札価格の評価については、次のとおりとする。

入札価格の得点は、入札価格を予定価格で除して得た値を1から減じて得た値に入札価格に対する得点配分を得た値とする。

$$\text{入札価格点} = \text{価格点の配分} \times (1 - \text{入札価格} \div \text{予定価格})$$

2. 技術等の評価方法

入札に係る技術等の評価は、別冊の仕様書、別紙1の評価項目及び得点配分基準及び別紙2の加点付与基準（以下「評価基準」という。）に基づき以下のとおり評価を行う。

なお、仕様書及び評価基準に記載されていない技術等は評価の対象としない。

また、仕様書及び評価基準に記載されている技術等であっても、入札に係る技術等が文部科学省としての必要度・重要度に照らして、必要な範囲を超え、評価する意味のないものは評価の対象としないことがある。

(1) 評価基準に記載する必須の評価項目に係る技術等については、仕様書に記載する必須の要求要件を満たしているか否かを判定し、これを満たしているものには評価基準に基づき基礎点を加え、さらに、これを超える部分については、評価に応じ次表基準に示す加点の点数の範囲内で得点を与える。

(2) 仕様書に記載する技術等の要求要件（以下「技術的要件」という。）を満たしているか否かの判定基準及び評価基準に基づき付与する得点の判定は、技術審査委員会において、提出された総合評価に関する書類その他入札説明書で求める提出資料の内容を審査して行う。

3. 得点配分

区分	価格点	技術点	合計
配点	50	100	150

4. 総合評価の方法

(1) 入札価格及び技術等の総合評価は、次の各要件に該当する入札者のうち、1の入札価格の評価方法により得られた入札価格の得点に、2の技術等の評価方法により得られた当該入札者の申込みに係る技術等の各評価項目の得点の合計を加えて得た数値を以て行い、当該数値の最も高いものを落札者とする。

① 予定価格の制限範囲内の入札価格を提示した競争加入者であること。

② 入札に係る技術等が仕様書で規定する技術的要件の内必須とした要求要件を全て満たしている技術等を提案した入札者であること。

(2) 上記数値の最も高いものが2人以上であるときは、当該者にくじを引かせて落札者を決定する。この場合において、当該入札者のうち出席しない者又はくじを引かない者があるときは、入札執行事務に関係のない職員に、これに代わってくじを引かせて落札者を決定する。

令和4年度「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業(伴走支援・横展開事業)」
評価項目及び得点配分基準

※: 必須の項目 ●: 価格と同等に評価できない項目

分類	評価項目 (要求要件)	基礎点	加点
	1 事業内容に関する評価 (50点)	24	26
●	1-1 事業内容の妥当性、独創性	2	8
	※① 仕様書記載の調査研究内容について全て提案されていること。 〔仕様書に示した内容以外の独自の提案がされていれば、その内容に応じて加点する。〕	2	8
●	1-2 プログラムの開発・実施等に関する伴走支援業務	10	8
	※① 大学等のアウトプット・アウトカム指標 (KPI) 等の達成を目指し、積極的な伴走支援を行う計画が具体的に記載されているか。	2	
	※② 大学等によるプログラム (以下「プログラム」という。) 開発段階において、大学等に対してどのような支援や助言等を行うかが明確に記載されているか。	2	
	※③ プログラム実施段階において、大学等に対してどのような支援や助言等を行うかが明確に記載されているか。	2	
	※④ 大学等からの相談に対する相談窓口の設置など、大学等からの相談に随時対応可能な体制が整備されているか。	2	
	※⑤ 大学等に対してどのような支援や助言等を行うかが明確に記載され、リカレント教育プログラムが大学等の教育研究の一環として継続的に実施されることを目指すうえで、成果が期待できる内容となっているか。 〔上記①～⑤の項目について、リカレント教育の推進に向けて成果が期待できる内容である場合は、その内容に応じて加点する。〕	2	8
●	1-3 調査・分析業務	8	5
	※① プログラムの事例収集・分析について、具体的な調査項目や調査方法が記載されているか。	2	
	※② プログラムの事例作成について、どの程度の規模でどのような観点で事例を選定・作成するかが明確に記載されているか。	2	
	※③ プログラム受講者や受講者を派遣した企業等に対する調査として、プログラム受講による成果や効果を把握できる調査が提案されているか。またその調査結果について、具体的な情報発信方法が記載されているか。	2	
	※④ 補助事業で開発・実施したプログラムを中心として、広くリカレント教育を実施することによる大学等への効果・課題の検証が可能となる調査が提案されているか。 〔上記①～④の項目について、リカレント教育の推進に向けて成果が期待できる内容である場合は、その内容に応じて加点する。〕	2	5
●	1-4 広報・周知業務	4	5
	※① 受講者募集、企業や地方公共団体等におけるプログラムの活用支援方策について、広報・周知の方法が具体的に記載されているか。また、プログラム周知のためにどのようなコンテンツの掲載をイメージしているか具体的に記載されているか。	2	
	※② プログラムの実施事例や事業成果の情報発信について、広報・周知の方法が具体的に記載されているか。また、社会人、大学等、企業、地方公共団体等におけるリカレント教育の推進に資する内容となっているか。 〔上記①～②の項目について、リカレント教育の推進に向けて成果が期待できる内容である場合は、その内容に応じて加点する。〕	2	5

	2 組織の経験・能力（21点）	6	15
-	2-1 組織の類似業務の経験	0	5
	① 組織が過去に類似の業務・役務等を実施した実績があること。 〔これまでの大学等関係事業、デジタル・グリーン分野等における人材育成関係の実績が、本事業の成果につながるものが期待できるものとなっていれば加点する。〕		5
-	2-2 組織の事業実施能力	6	5
	※① 事業を遂行する人員および事業実施体制が確保されているか〔幅広い知見・人的ネットワーク・優れた情報収集能力を有していれば加点する〕	2	5
	※② 事業を実施する上で適切な財務基盤、経理能力を有しているか。	2	
	※③ 事業内容に対して、妥当な経費が示されているか。	2	
-	2-3 事業実施に当たってのバックアップ体制	0	5
	①円滑な事業遂行のための人員補助体制が組まれていれば加点する。		5
	3 事業担当予定者の経験・能力（19点）	4	15
-	3-1 事業担当予定者の類似業務の経験	0	5
	① 事業担当予定者が過去に類似の業務・役務等を実施した実績があること。 〔これまでの大学等関係事業、デジタル・グリーン分野等における人材育成関係の実績が、本事業の成果につながるものが期待できるものとなっていれば加点する。〕		5
-	3-2 事業担当予定者の業務内容に関する専門知識・適格性	4	10
	※① 事業内容に関する知識・知見を有していること	4	5
	② 事業内容に関する人的ネットワークを有していれば加点する。		5
	4 ワーク・ライフ・バランス等の推進に関する指標（5点）		5
-	4-1 ワーク・ライフ・バランス等の取組		
	以下のいずれかの認定を受けていること。 〔ワーク・ライフ・バランス等の取組に関する認定内容等により加点する。〕 ◇ 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）に基づく認定（えるぼし認定企業・プラチナえるぼし認定企業）を受けていること。又は、一般事業主行動計画策定済（常時雇用する労働者の数が100人以下のものに限る） ◇ 次世代育成支援対策推進法（次世代法）に基づく認定（くるみん認定企業・トライくるみん認定企業・プラチナくるみん認定企業）を受けていること。 ◇ 青少年の雇用の促進等に関する法律（若者雇用促進法）に基づく認定を受けていること。		5
	5 賃上げを実施する企業に関する指標（5点）		5
-	5-1 賃上げの表明		
	以下のいずれかを表明していること。（いずれかを応募者が選択するものとする。） 5-1-① 令和4年4月以降に開始する入札者の事業年度において、前年度比で「給与等受給者一人あたりの平均受給額」を大企業においては3%以上、中小企業等においては1.5%以上増加させる旨を従業員に表明していること。 5-1-② 令和4年以降の暦年において、対前年比で「給与等受給者一人当たりの平均受給額」を大企業においては3%以上、中小企業等においては1.5%以上増加させる旨を従業員に表明していること。		5
	合 計 [100点]	34	66

令和4年度「成長分野における即職力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業(伴走支援・横展開事業)」に係る加点付与基準

加点評価項目	評価区分			
	大変優れている	優れている	やや優れている	加点しない
1 事業内容に関する評価				
1-1 事業内容の妥当性、独創性				
仕様書に示した内容以外の独自の提案について	8	4	2	0
1-2 プログラムの開発・実績等に関する伴走支援業務				
プログラムの開発・実施等に関する伴走支援の提案内容が、リカレント教育の推進に向けて成果が期待できる内容となっているか	8	4	2	0
これまでの大学等関係事業、デジタル・グリーン分野等における人材育成関係の実績が、本事業の成果につながる事が期待できるものとなっているか	5	2	1	0
1-3 調査・分析業務				
調査・分析業務に関する提案内容が、リカレント教育の推進に向けて成果が期待できる内容となっているか	5	2	1	0
1-4 広報・周知業務				
広報・周知業務に関する提案内容が、リカレント教育の推進に向けて成果が期待できる内容となっているか。	5	2	1	0
2 組織の経験・能力				
2-1 組織の類似業務の経験				
組織が過去に類似の調査研究・役務等を実施した実績があり、これまでの実績が本事業の成果につながる事が期待できるか。	5	2	1	0
2-2 組織の事業実施能力				
幅広い知見・人的ネットワーク・優れた情報収集能力を有しているか。	5	2	1	0
2-3 事業実施に当たってのバックアップ体制				
円滑な事業遂行のための人員補助体制が組まれているか。	5	2	1	0
3 事業担当予定者の経験・能力				
3-1 事業担当予定者の類似業務の経験				
事業担当予定者が過去に類似の調査研究・役務等を実施した実績があり、これまでの実績が本事業の成果につながる事が期待できるか。	5	2	1	0
3-2 組織の事業実施能力				
事業内容に関する知識・知見を有しており、本事業の成果につながる事が期待できるか。	5	2	1	0
事業内容に関する人的ネットワークを有しているか。	5	2	1	0
4 ワーク・ライフ・バランス等の取組				
複数の認定等に該当する場合は、最も配点が高い区分により加点を行うものとする。				
以下のいずれかの認定を受けているか				
○女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)に基づく認定(えるぼし認定企業・プラチナえるぼし認定)等				
・認定段階1(労働時間等の働き方に係る基準は満たすこと)	2			
・認定段階2(労働時間等の働き方に係る基準は満たすこと)	3			
・認定段階3	4			
・プラチナえるぼし認定企業	5			
・行動計画策定済(女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定義務がない事業主(常時雇用する労働者の数が100人以下のもの)に限る(計画期間が満了していない行動計画を策定している場合のみ))	1			
○次世代育成支援対策推進法(次世代法)に基づく認定(くるみん認定企業・トライくるみん認定企業・プラチナくるみん認定企業)				
・くるみん認定①(平成29年3月31日までの基準)(次世代法施行規則等の一部を改正する省令(平成29年厚生労働省令第31号。以下「平成29年改正省令」という。))による改正前の次世代法施行規則第4条又は平成29年改正省令附則第2条第3項の規定に基づく認定)	2			
・トライくるみん認定	3			
・くるみん認定②(平成29年4月1日～令和4年3月31日までの基準)(次世代法施行規則の一部を改正する省令(令和3年厚生労働省令第185号。以下「令和3年改正省令」という。))による改正前の次世代法施行規則第4条又は令和3年改正省令附則第2条第2項の規定に基づく認定(ただし、①の認定を除く。))	3			
・くるみん認定③(令和4年4月1日以降の基準)(令和3年改正省令による改正後の次世代法施行規則第4条第1項第1号及び第2号の規定に基づく認定)	3			
・プラチナくるみん認定	5			
○青少年の雇用の促進等に関する法律(若者雇用促進法)に基づく認定				
・ユースエール認定 ※内閣府男女共同参画局長の認定等相当確認を受けている外国法人については、相当する各認定等に準じて加点する。	4			
5 賃上げを実施する企業に関する指標				
いずれかの表明をしている場合に加点するものとする。				
以下のいずれかを表明しているか				
5-1-① 令和4年4月以降に開始する入札者の事業年度において、前年度比で「給与等受給者一人あたりの平均受給額」を大企業においては3%以上、中小企業等においては1.5%以上増加させる旨を従業員に表明していること。	5			
5-1-② 令和4年以降の暦年において、対前年比で「給与等受給者一人あたりの平均受給額」を大企業においては3%以上、中小企業等においては1.5%以上増加させる旨を従業員に表明していること。	5			